

日本のものづくりを支える金型業界を新型コロナウイルスの世界的流行が直撃している。日本経済新聞社が金型メーカーに実施した緊急アンケートで、8割近い企業が受注を減らしていることがわかった。緊急事態宣言の解除でビジネスにも「平時」への回帰ムードが漂うが、製造業への影響はむしろ今後大きくなる。長引けば中小規模の会社には死活問題となる。

本社緊急アンケート

今後より深刻に

「足元の4〜5月はなんと持ちこたえたが、受注が全然足りていない。この状況だと夏に売り上げが立たない」と身構えるのは長島成型（東京・葛飾）の長島淳司社長。これまで手持ちの受注残で対応してきたものの、自動車関連の顧客が相次ぎ減産したため、従業員の週休を3日に増やしたり、雇用調整助成金を申し込んだりした。

中部地方のある金型メーカーは「夏以降、新型コロナウイルスの影響が本格的に響いてくる」とみる。受注のキャンセルや、車関連の顧客の生産調整や休業に合わせた先送りも相次いだのは4月から。それらの納品時期にあたるのは7〜8月で、受注がない分だけ売り上げが落ち込む。米中貿易摩擦に伴う不振から復調できるとの期待は裏切られた。

5月25日までに回答した122社について集計した今回の調査。新型コロナウイルスの影響として自動車関連の取引先があるメーカーのうちの77.2%、また家電・電子機器関連の取引先があるうちの79.6%が受注減を挙げた。収益減にも直結し、調査で売上高を開示した88社

金型、コロナの傷深く

「継続困難」が半数超 医療など新分野に活路

では73.9%が20年度は前年度から減収となると、幅減を見込んでいる。予想。10.2%はマイナ

経済産業省の機械統計によると、19年の金型生産量は前年比6.6%減

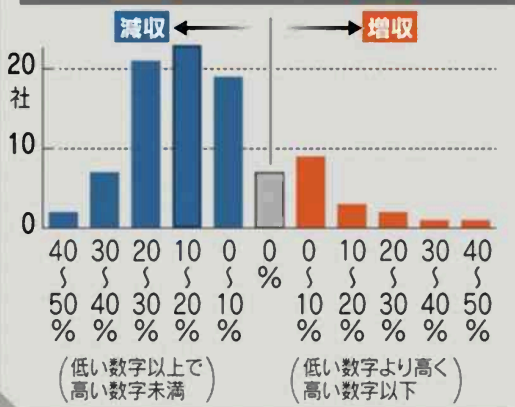
では0.5%減の398億円だった。米中摩擦の競争から続いていた単価下落にはある程度歯止めがかかったようだった。落ち着きを取り戻す

に冷や込ませたが、中国との競争から続いていた単価下落にはある程度歯止めがかかったようだった。落ち着きを取り戻す

に冷や込ませたが、中国との競争から続いていた単価下落にはある程度歯止めがかかったようだった。落ち着きを取り戻す

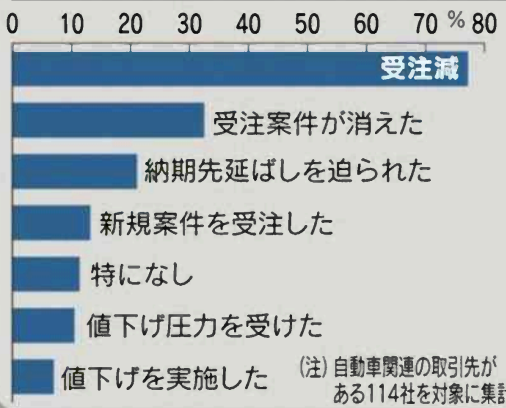
コロナで金型業界も打撃を受けている

今年度は10%以上20%未満の減収見通しが最多

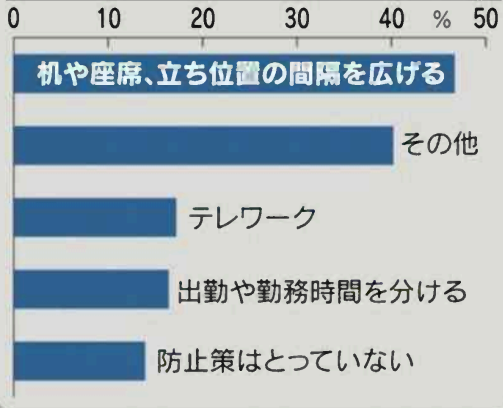


佐藤製型（埼玉県三郷市）は新規受注減や資金調達に悩みながらも操業を続ける

新型コロナウイルスの影響（複数回答可）



新型コロナウイルスの感染防止策（複数回答可）



難局を乗り越える生産や営業での工夫の例



医療処置の際に飛沫を浴びるのを防ぐ「スプラッシュガード」。協栄プリント技研が製品化

新型コロナウイルス関連

- 医療用「スプラッシュガード」の製造
- フェースシールドの製造
- マスクの製造

インターネット活用

- 国内外顧客とのオンライン商談会
- ウェブでの会議や打ち合わせ
- ホームページやSNSによる市場開拓

異業種連携・参入

- 他社との間で顧客を相互で紹介
- プレス加工やプラスチック成型にも対応
- 車から建材へ配置換えし多能工育成

の先キャンセルにならない保証はない」（佐藤広美社長）と、気が気でない。今のうちに少しでも売り上げを確保しようとして、納品に向けて工作機械をフル稼働させている。

自動車関連が売り上げの8割を占める佐藤製型。同社の佐藤社長が気を配る背景にあるのが、車関連に多い「内示」と呼ばれる取引慣行だ。部品元請けから注文の書面なしに口頭で数量を示され、見込み生産を始めるといったこと。注文書等待つと社内稟議（りんぎ）に時間がかかり納期に間に合わない恐れがあるため、元請けには利点が大きいが、下請けには注文書がないからと納品を拒まれるリスクがある。

稲垣金型製作所（静岡県）の稲垣武洋社長は「国内では金型を納品した段階で100%の代金を受取る仕組みになっており、納品が先延ばしになればなるほど、下請け企業の資金繰りが厳しくなる」と話す。海外では受注に際して代金の一部を手付金として支払い、納品時に残りの分を支払うのが一般的だが、国内では下請けの金型メーカーが全面的にリスクを負わされる格好だ。こうした業界の構造問題からくる金型各社の資金面の苦境ぶりは、今回調査でも明らかになっている。政府が導入した新型コロナウイルスでの資金繰り支援策について尋ねたところ、すでに利用した「利用する予定がある」が50%を占め、「検討中」も35.2%に上った。

金型需要を左右する自動車メーカーは新型コロナウイルスによる新車販売の不振を受け、6月も国内で減産を続けている。トヨタ

の減産台数は12万台超で、減産幅は単月で最大だ。近健太執行役員は今後の世界販売について、「4〜6月で販売が前年比6割、7〜9月で8割、10〜12月で9割」とその後、前年並みに戻るとの見通しを示している。

逆境を商機に

新型コロナウイルスとは持久戦。病院から開発依頼を受けるようになってきているのが、前向きにとらえ商機にしよと挑戦を始めた企業も出てきている。プリント基板用金型や医療用包装用プレス金型を手がける協栄プリント技研（東京都調布市）は4月、医療従事者が患者から飛沫感染するのを防ぐ「スプラッシュガード」を開発した。患者の顔を覆ってウイルスを含んだ飛沫が拡散するのを抑えつつ、検査や手術ができる。既存品はかさばる上に重量も5kgほどと重く、使った後に消毒する必要があった。一方協栄プリント技研の新製品は医師や看護師が扱いやす

リスク分散

難しい製造業 3面に続く

◆調査概要、回答企業一覧も